

プラスチック資源循環促進法

海洋プラスチックごみ問題などを契機として、プラスチックにかかる資源循環を促進するため令和4年4月に「プラスチック資源循環促進法」が施行されました。「プラスチック資源循環促進法」は、「3R+Renewable」を基本原則として、プラスチック製品の製造・販売、リサイクルに関わる事業者・自治体・消費者が相互に連携し、国内のプラスチック排出抑制や資源循環に取り組むことを目的に制定されました。

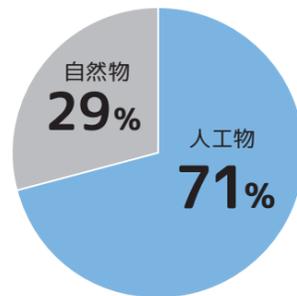


函館の海岸では…海洋プラスチックごみ問題

環境省が令和元年度に実施した漂着ごみモニタリング調査結果によると、自然物と人工物の割合は、容積ベースで約7割が人工物で、その大半がプラスチック類となっています。(右図)

プラスチックごみには、漁具等も含まれていますが、多くは陸上で発生したペットボトルやポリ袋・菓子袋などの生活ごみが雨や風で川や水路に入り込み、海に流れ込むもので、プラスチックごみの適正な処理と排出抑制に取り組むことが大切です。

函館の漂着ごみ(人工物、自然物)の割合(容積)
【環境省/令和元年度】



函館市
公式サイト

プラスチックごみを
なくしましょう



さらに
詳しい情報を
知りたい方は



環境省
公式サイト

Plastics Smart
プラスチック
スマート

函館市環境部環境推進課
TEL:0138-85-8238 FAX:0138-85-8279
発行:令和6年3月

2000 VEGETABLE OIL INK
古紙パルプ配合率60%再生紙を使用
このパンフレットは、リサイクルできます。

プラスチックとの 上手なつきあい方

みんなで作る
キレイなはこだて

KEEP CLEAN
HAKODATE



函館市



プラスチックとのいい関係が未来の環境をつくれます。

プラスチックは、軽量で耐久性に富み、安価で成型が容易なことなどから、様々な製品や容器包装などに利用されており、私たちの生活に不可欠な素材である一方、世界のプラスチック年間生産量は、過去50年間で20倍に増大、さらに今後20年間で倍増すると予想されており、海洋汚染をはじめとする様々な環境問題も起こっています。^{※1}

ごみを減らし、地球環境を守るために私たちにできることがあります。そのキーワードとなるのが「3R+Renewable」という行動です。

※1「世界経済フォーラム」(通称「ダボス会議」)より



函館は「海」に囲まれた観光都市です。生活に密着した海をキレイに保つことは、豊かな暮らしや未来の環境保全にもつながる重要な課題です。

KEEP CLEAN HAKODATE

「函館市ゼロカーボンシティ宣言」2050年までに二酸化炭素(温室効果ガス)排出量実質ゼロを目指します。

KEEP CLEAN HAKODATE

プラスチックにまつわる問題の現状

海洋プラスチックごみ問題

全世界で年800万トン以上のプラスチックごみが海に流入し、2050年には海の中のプラスチックごみの量が魚の量を上回ると予想されています。^{※2}これは函館市の家庭から排出されるごみの量の約138年分に当たり、生態系に悪影響を与えており、深刻な海洋汚染を引き起こしています。流入したプラスチックごみは、波や紫外線等の影響で、やがて直径5mm以下の「マイクロプラスチック」になる場合もあり、自然に分解されにくいことから、長期にわたり海にとどまります。また、プラスチックは有害物質を吸着しやすい性質があるため、魚が餌と間違えて吸い込んでしまい、その魚を人間が食べることによる健康被害が懸念されており、世界全体で取り組むべき重要な課題です。

日本はプラスチック生産量世界第3位。一人当たりの容器包装プラスチックごみの発生量はアメリカに次ぐ世界第2位というプラスチック大国であり、この問題に国際的な責任を果たさなければならない立場にあります。^{※3}

※2「エレン・マッカーサー財団」が「世界経済フォーラム」と協力して作成した調査書より
 ※3国連環境計画(UNEP)より
 ※4温室効果ガス排出量から森林などによる吸収量を差し引き、実質0にすること。
 ※5二酸化炭素を減らす(DE)脱炭素(Decarbonization)と、環境に良いエコ(Eco)を含む「デコ」と活動・生活を組み合わせた新しい言葉。

地球温暖化問題

近年、各地で頻発している大雨や暴風、干ばつなどの様々な異常気象は世界的な問題となっており、温室効果ガスの削減に取り組むこと、いわゆる「カーボンニュートラル」を実現することが大切で、温室効果ガス排出量を実質ゼロ^{※4}とすることを目指した「脱炭素型のライフスタイル」に転換していくことが大切です。これを実現するためには、化石燃料に頼らず、太陽光や水素など自然環境に負荷の少ないエネルギーの活用を進めることで二酸化炭素の排出量を減らし、そうした活動を経済成長の機会と捉え、変革していくGX(グリーントランスフォーメーション)活動が求められています。国は、脱炭素につながる新しい豊かな暮らしの実現に向けた国民運動「デコ活」^{※5}を後押ししています。

大切な資源として

我が国は、プラスチックの原料となる原油の多くを輸入に頼っています。また原油などの地下資源は、採れる量に限りがあります。このため、使い捨てプラスチックの使用を控えたり、リサイクルすることで、できる限り資源を国内で循環させることは、大切なことなのです。

私たちにできること

Reduce リデュース

【ごみ減量】

- 物を大切に使い、買い物の際には、必ずマイバッグを持参する。
- ワンウェイ(使い捨て)プラスチック製品や過剰包装の商品は買わない。
- スプーンやストローなどのプラスチック使用製品の提供は辞退する。



Reuse リユース

【再使用】

- マイボトルやマイカトラリーなどの繰り返し使える製品を利用する。
- 詰め替え商品を利用し、ボトルを再使用する。



Recycle リサイクル

【再生利用】

- 「プラスチック容器包装」や「缶・びん・ペットボトル」などは適切に分別し、軽くすずいで資源ごみへ排出する。



Renewable リニューアブル

【再生可能な資源への代替】

- 「バイオプラスチック」などの再生可能な素材を使った商品を積極的に利用する。



その他には・・・

- ポイ捨てなどの不法投棄はしない、させない。
- ボランティア清掃や環境保全活動に積極的に参加する。



日常生活のちょっとした行動が、未来の環境につながっています。

KEEP CLEAN HAKODATE